

## 北海道旭川市との DX 連携協定締結について

担当：総合政策課 田中（電話 0979-62-9031）、行政経営改革・デジタル推進課 森下

大分県中津市と北海道旭川市は、相互に連携しながら双方の資源を有効に活用した協働により DX を推進し、市民サービスの向上、業務の効率化等に資することを目的として連携協定を締結します。

### 協定締結式



日時：11月28日（月）15：30～16：00 場所：中津市役所 4階 応接室

\*オンラインで両市を繋いで行います

### 経緯

- 中津市にて DX アドバイザーを委託している森本登志男氏が令和4年度に旭川市の CD0(最高デジタル責任者)に就任、また、中津市 DX 推進監の東富彦氏が地域情報化アドバイザーとして旭川市で中津市の DX 事例を紹介
- 両市の DX 担当がチャット上で情報交換をする中で、自治体間で DX 事例を共有し、連携して自治体 DX を加速させることが必要との認識で一致

### 連携の意義

- 自治体同士が連携することで、成功した事例のノウハウを素早く共有でき、同じような試行錯誤を繰り返すことがなくなり、DX を効果的かつ効率的に進めることができる
- 規模の異なる自治体同士が連携することで、互いの強み（大規模自治体では業務の効率化に取り組みやすい反面、小規模自治体は個別の市民ニーズに柔軟に対応できるなど）を活かした DX について、知見を共有できる
- デジタル技術を活用することで、物理的な距離に関係なく連携

### 具体的な連携内容

#### 【中津市⇒旭川市】

- デジタルツールの市民サービス活用事例
- 職員研修・意識醸成手法の共有

#### 【旭川市⇒中津市】

- 窓口改革、システム標準化やガバメントクラウドに関する進捗状況の共有
- 業務フロー分析による内部事務改善事例の共有
- 職員による業務改善の共有

互いの情報共有はビジネスチャットやクラウド上のデータストレージを活用しています。



# 協定締結式 次第

日時：11月28日（月）15：30～16：00

場所：中津市会場 中津市役所 4階 応接室

旭川市会場 旭川市総合庁舎2階 第2応接室

※ 両市の会場をオンラインで繋いで行います

## 1. 出席者紹介

旭川市長 今津 寛介（いまず ひろすけ）  
CDO（最高デジタル責任者） 森本 登志男（もりもと としお）

中津市長 奥塚 正典（おくづか まさのり）  
DX推進監 東 富彦（あずま とみひこ）

## 2. 協定の概要説明

## 3. 協定の締結

タブレット上で行う署名がリアルタイムでモニターに映し出されます

## 4. 挨拶

旭川市長、中津市長それぞれから挨拶

## 5. 質疑応答



## 北海道旭川市

人口：32.5万人

面積：747.66km<sup>2</sup>

北海道のほぼ中央で雄大な大雪山連峰に抱かれ、石狩川と多くの支流が合流し、肥沃な盆地が広がっています。

時代の変遷を積み重ね、道北の要、交通の要衝・物流の集積地として発展。北海道No.1の生産量を誇る米どころで、家具などの魅力からユネスコ創造都市ネットワークに認定されたデザイン都市です。99%の空港就航率。旭山動物園や雪質が良いスキー場などに、国内外から年間500万人を超える観光客が訪れます。

今年で市制施行100年を迎え、次の100年に向け新たな一步を踏み出しています。



## 大分県中津市

人口：8.3万人

面積：491.44km<sup>2</sup>

大分県の西北端に位置し北西は福岡県に接し、北は周防灘に面しています。市域の約80%は山林原野が占め、山国川下流の平野部にまとまった農地が開けています。

古くから製造業が盛んで、現在は自動車関連産業を中心に企業立地が進んでいます。一方、山間部は「名勝耶馬溪」に代表される豊かな自然景観を誇ります。福澤諭吉先生が幼少青年期を過ごした地であり、一万円札肖像交代を機に「不滅の福澤プロジェクト」が進行中。

